

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・文を正しく読み書きしたり、自分の考えたことを正しく話したりすることができる力を伸ばす指導を、引き続き行う必要がある。 ・自分の伝えたいことを整理して、順序に気を付けて考えをまとめ、話したり書いたりすることができる力を高める指導法の工夫が必要である。 ・説明的文章を読み、筆者の主張を読み取るとともに、それに対する自分なりの考えをもち表現する力を育む指導を、意図的かつ計画的に行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な読書活動や音読の学習を通して文字に触れる機会を意図的に増やし、豊かな語彙や言語感覚の素地を養っていく。 ・日記・短作文等を課して書き慣れるようにするとともに、発表の機会を活用して、自分の考えと理由を述べることを意識付けていく。 ・低学年より段階的に説明的文章を読むための指導を行い、正しく読み、自分の考えを表現する経験を積ませ、他教科領域で活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ○ ○
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会から学ぶ体験的な学習が制限される中で、自分たちの生活と関連させ、地域の人々や社会とのつながりに結び付くようにさせる指導が十分ではない。 ・表やグラフなどの資料からどのようなことが読み取れるのか、思考力・判断力を育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験したことをまとめる際に、地域の特色について考えたり、生活との関わりについて考えたりできるような明確な視点を意識させながら、指導をする。 ・グラフや表の具体的な要素の違いからどのようなことが考えられるか検討する機会を多くもつ。 ・電子黒板やICT機器を効果的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ○ ◎
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・数の合成・分解、繰り上がり・繰り下がりのあるたし算とひき算、かけ算を十分理解していない児童への指導を徹底する必要がある。 ・長さや、かさ、時間の概念を理解させるための指導および個別の支援の一層の充実を図る必要がある。 ・問題解決型の学習で児童が粘り強く考え、活発な学び合いに取り組めるようにする発問の精選が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習や、家庭学習を活用しながら、習熟を図る時間を確保するとともに、具体物・半具体物を操作させ、実感を伴って学べるようにする。 ・半具体物などの教材や数直線やタイル図などを用いたり、電子黒板等のICT機器を活用したりしながら視覚的に捉えられるようにし、個に応じた支援を行う。 ・学び合い活動を積極的に取り入れるために、ICT機器を活用しながら問題解決や意見交流の場を意図的に設け、論理的思考力を身に付けさせる。 ・習熟度別学習において、理解度に応じた問題解決の方法を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ◎ ○ ○
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・四季の自然観察を継続的に行っていくための計画的な指導と、生活科や理科を中心として総合的な学習の時間と関連した指導の工夫が必要である。 ・観察や実験を通して、予想を立てる、記録や結果を整理してまとめるという科学的な思考の深まりを促す指導が十分でない。 ・観察と実験活動を重視し、観察と実験の技能を高める指導や、科学的な思考が育成できるよう、児童の考えを適切に表現できるようにする指導の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農園の整備、手入れとともに、生活科や理科、総合的な学習の時間において「サツマイモ」「ダイコン」「ヘチマ」「ツルレイシ」の栽培活動や観察を通して、継続的に学習を行う。 ・問題解決型の授業展開を図り、自らの課題をもとに主体的に観察や実験を行えるようにするとともに、ノート指導を通し記録のまとめ方を指導する。 ・問題を児童と共に作り、学習に見通しをもたせるとともに、観察と実験の結果をグラフや表にまとめ、それらを基に考察して、根拠を示しながら自分の考えを説明する学習場面を設定する。 ・電子黒板やICT機器を効果的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ○ ○ ◎

生活	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの動植物に対して、興味・関心を高めたり、不足している様々な体験活動を補ったりするための活動が十分でない。 ・すすんで人と関わりながら学習し、思いや考えを積極的に表現できる力を育むための指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の飼育や、野菜や植物の栽培(アサガオ・チューリップ・ミニトマトなど)を行い、児童が主体的に関わることができるようにする。 ・校外学習や身近な人、友達と関わる学習、地域の畑を活用した活動を意図的に設定する。 	<p>◎</p> <p>△</p> <p>新型コロナの影響</p>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムに合わせて体を動かし、身体表現をできるようにするための指導の工夫が必要である。 ・歌唱と器楽演奏の基礎基本を十分に定着させ、楽しく演奏するための指導を充実させる必要がある。 ・音楽的要素に気付かせ、思いや意図をもって表現に結び付けさせる指導を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが楽しく、心地よく身体表現ができるように、リズム遊びやリズムアンサンブルを積極的に取り入れる。 ・練習の機会を増やすとともに、個別指導や、友達と交流しての教え合いの時間を取り入れる。 ・ICTの機能を活用しながら指導する。 ・表現の意図を考える場を設定し、様々な表現へのアプローチを体験させる。 	<p>○</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>◎</p>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・切る、折る、貼るなど、技能面に個人差があり、様々な用具を使う技能を伸ばすための指導を充実させる必要がある。 ・つくりだす能力やデザインの能力を伸ばす指導を実施しているが、形や色、材料を生かす能力の定着を図る指導の徹底が必要である。 ・根気強く取り組めるような課題や指導の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な用具の使い方を身に付けられるように、用具を用いた遊びの体験を通して確実に指導するとともに、個別の指導も充実させる。 ・色のつくりかたや材料の使い方について基礎的な学習ができる課題を設定し、材料の特性や扱い方を学べるようにする。 ・題材選びを工夫し、用具や材料を提示する時間を見定めて児童に示すことで、学習意欲の持続につなげる。 	<p>◎</p> <p>○</p> <p>○</p>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」では、目的に沿った自分なりの工夫ができるような指導を工夫する必要がある。 ・「生活の技能」では、基礎的技能的個人差が大きく、個別に指導したり、家庭と連携した指導をしたりするといった工夫が必要である。 ・学習したことが家庭生活に生かせるような事後指導や、自己有用感が味わえるような指導を充実させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・励ましの言葉や助言を通し、個に応じた指導をきめ細かく行う。 ・基礎的スキルについては、調理実習や手縫い、ミシン縫いで製作すること等、経験を重ね習熟を図る。 ・具体的な素材を教材化し、実践的活動を多く取り入れるとともに、学習したことを日常の家庭生活に生かしていくこと、またその方法を具体的に指導する。 	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な運動遊びを通して、多様な動きを身に付け、体力を向上させる指導法を工夫する必要がある。 ・一人一人に合っためあてをもたせるための支援が十分ではない。 ・体力テストの結果から課題となった、握力とソフトボール投げの能力向上を意識した運動を取り入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の能力や意欲に見合っためあてをもたせたり、意欲的に運動することができるような場の設定を工夫したりする。 ・学習カードやタブレットを活用し、児童がめあてをもち見通しをもって学習できるようにする。 ・運動量が確保できる場を設定し、運動を「すること」「みること」「支えること」「知ること」の4つの観点から、個人のめあてに合った場で運動できるようにする。 	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を話すことに対して苦手意識をもっている児童への、コミュニケーションの活性化を促すための指導を工夫する必要がある。 ・書く技能に差があり、書くことに慣れさせ正しく書く力を養う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な表現を用いて発話する機会を増やしたり、友達との対話を楽しむ中で英語を通じたコミュニケーションの楽しさを味わわせたりする。 ・ローマ字の学習だけでなく、授業や帯学習の中で書く活動を意図的に取り入れていく。 	<p>◎</p> <p>○</p>

